

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第3部門第2区分
 【発行日】令和4年9月7日(2022.9.7)

【国際公開番号】WO2019/139134
 【出願番号】特願2019-564762(P2019-564762)

【国際特許分類】

A 0 1 N 2 5 / 0 2 (2 0 0 6 . 0 1)
 A 0 1 P 1 / 0 0 (2 0 0 6 . 0 1)
 A 0 1 P 3 / 0 0 (2 0 0 6 . 0 1)
 A 0 1 P 1 7 / 0 0 (2 0 0 6 . 0 1)
 A 0 1 N 5 9 / 0 0 (2 0 0 6 . 0 1)
 C 0 1 B 1 1 / 0 4 (2 0 0 6 . 0 1)

10

【 F I 】

A 0 1 N 2 5 / 0 2
 A 0 1 P 1 / 0 0
 A 0 1 P 3 / 0 0
 A 0 1 P 1 7 / 0 0
 A 0 1 N 5 9 / 0 0 A
 C 0 1 B 1 1 / 0 4

20

【手続補正書】

【提出日】令和4年8月30日(2022.8.30)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

30

次亜塩素酸水溶液からなり、保護対象に散布することによって当該保護対象から有害生物を忌避することが可能となる忌避剤であって、
前記次亜塩素酸水溶液は、pHが4.0以上7.0以下であり、重炭酸イオンを含む
ことを特徴とする忌避剤。

【請求項2】

前記次亜塩素酸水溶液は、次亜塩素酸濃度が5ppm以上400ppm以下であることを特徴とする請求項1に記載の忌避剤。

【請求項3】

前記保護対象は、栽培植物であることを特徴とする請求項1又は2に記載の忌避剤。

40

【請求項4】

前記有害生物は、コバエであることを特徴とする請求項1乃至3に記載の忌避剤。

【請求項5】

前記次亜塩素酸水溶液は、硫酸イオン、硝酸イオン、リン酸イオンの少なくともいずれかを含むことを特徴とする請求項1乃至4に記載の忌避剤。

【請求項6】

請求項1～5に記載の前記忌避剤を構成する前記次亜塩素酸水溶液の製造方法であって、重炭酸イオンを含む水から陰イオンを除去せずに金属イオンを除去することで、当該水を精製する第1工程と、

50

前記第 1 工程で精製した水に無機酸及び次亜塩素酸塩を混合するか、前記第 1 工程で精製した水に塩化物イオンを含む水溶液を電気分解することで、重炭酸イオンを含み、pH が 4.0 以上 7.0 以下の次亜塩素酸水溶液を生成する第 2 工程と、を有することを特徴とする次亜塩素酸水溶液の製造方法。

【請求項 7】

前記第 2 工程は、前記第 1 工程で精製した水に無機酸及び次亜塩素酸塩を混合することで、次亜塩素酸水溶液を生成する工程であって、

前記第 2 工程における前記混合は、

前記水へ前記無機酸を断続的に供給し、

前記無機酸の供給により生成した希釈無機酸に前記次亜塩素酸塩を連続的に供給することにより行う

ことを特徴とする請求項 6 に記載の次亜塩素酸水溶液の製造方法。

【請求項 8】

請求項 1 ~ 5 に記載の前記忌避剤を構成する前記次亜塩素酸水溶液を製造するための製造装置であって、

重炭酸イオンを含む水から陰イオンを除去せずに金属イオンを除去することで、当該水を精製する第 1 工程を行う第 1 装置と、

前記第 1 工程で精製した水に無機酸及び次亜塩素酸塩を混合することで、重炭酸イオンを含み、pH が 4.0 以上 7.0 以下の次亜塩素酸水溶液を生成する第 2 工程を行う第 2 装置と、を備え、

前記第 2 装置は、

前記水を供給する配管と、

前記水が供給された前記配管に前記無機酸を断続的に供給する無機酸供給部と、

前記無機酸が供給された水に前記次亜塩素酸塩を連続的に供給する次亜塩素酸塩供給部と、を備える

ことを特徴とする次亜塩素酸水溶液の製造装置。

【請求項 9】

前記配管は、

前記希釈無機酸を攪拌する攪拌部を有することを特徴とする請求項 8 に記載の次亜塩素酸水溶液の製造装置。

10

20

30

40

50